



チェック項目	はい ○	わからない (無回答)	いいえ ×	工夫点	職員間の改善目標他
環境・体制整備					
利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	30%		70%	体動のある子どもの配置	5名定員に沿った広さではありますが、バギーの乗り入れや、医療機器などが多い場合には不要な物の整理をする等にて改善を行います。
職員の配置数は適切であるか	40%	20%	40%	声のかけあい、職員同士の配慮	療法士(OT・PT)1名募集中です。他の専門職員の人数は要件に沿っていますが、緊急時の医療行為の対応を考慮すると十分な人員とはいえないので、今後も人員増について要望をだしていきます。
設備等について、バリアフリー化の配慮等が適切になされているか	100%			特性にあった場所配置	バギーで室内に入っていけるようリフォーム済
業務改善					
Plan (計画) → Do (実行) → Check (評価) → Action (改善) サイクルに則り、職員が計画や相談に加わっているか	70%	15%	15%		
保護者の意向等を把握し、評価表による評価を実施し、業務改善につなげているか	60%	25%	15%		よりよい評価へ改善をしていくため、研修への参加を増やしていきます。
事業所としての自己評価を行い、支援の質の評価及び改善内容を公開しているか	30%	70%			会報にて一部お伝えして参りましたが完全ではありませんでした。今後ホームページで全項目につき公表していきます。
第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		85%	15%	医師・担任等による見学とアドバイス	第三者評価の指定事業所は北海道では3か所となっており、外部評価は難しいのですが、関係機関等に状況の客観的な意見や指導を頂いていきます。
職員の資質の向上にむけた研修を行っているか	100%				療育、医療処置等について、今後も研修を重ねていきます。
適切な支援の提供					
アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで、個別支援計画(児童発達支援計画)を作成しているか	85%	15%		研修を重ねていきます。	より良い個別支援計画作成にむけ、研修を受け努力していきます。
個別支援計画には「発達支援」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から必要な項目が適切に選択され、具体的な支援内容が設定されているか	45%	40%	15%		
個別支援計画に沿った支援が行われているか	70%	15%	15%		職員間の支援会議等を十分に行っていく必要があり、会議内容の充実を心がけます。
活動プログラムの立案をチームで行っているか	85%	15%			
活動プログラムが固定化しないように工夫をしているか	70%	15%	15%	季節や行事にあわせた活動	五感をとおしスヌーズレンによる快刺激を伝えます。
子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ個別支援計画を作成しているか	45%	25%	30%		
支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	70%		30%		
支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点を共有しているか	70%	30%			
日々の支援記録をとり、支援の検証や改善につなげているか	100%				療育内容、体調状況他を記録しています。
定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断しているか	55%	30%	15%		長期入院や体調の大きな波により、定期的なモニタリングは難しい状況でしたが今後、状

					況の推測をし、行っていく努力をしていきます。
保護者や関係機関との連携					
障害児相談支援事業所サービス担当者会議に、その子どもの状況に精通した最もふさわしい職員が参画しているか	70%	30%		児発管・看護師・作業療法士による参画	医療処置等の会議には看護師が加わります。
母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	85%	15%			
子どもの在宅支援のために地域の関係機関（地域保健・教育・障害福祉・保育等）と連絡体制を整えて支援しているか	100%				
医療的ケアの部分において。子どもの主治医（かかりつけ医）や協力医療機関等と連携体制を整えているか	100%				注意点は、直接かかりつけ医より指示をいただき、各関係機関とも相談をしております。
移行支援として、保育所や小学校との間で支援内容の情報共有と相互理解を図っているか	70%				養護学校、聾学校、盲学校、わかさ学園等と連携しております。
他の専門機関（児童発達支援センター、子育て会議、旭児連等）と連携し、助言や研修を受けているか	60%	25%	15%	旭児連・児相他研修参加	
障がいのない子どもたちと交流や活動する機会があるか		30%	70%		どのように交流をしていくか、感染予防を十分考慮し、計画をたてていきます。
日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解をもっているか	70%	15%	15%		
保護者の対応力の向上を図る観点から、家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング）の支援を行っているか	15%	40%	45%		医療面を含め、サポートを行う努力をいたします。
保護者への説明責任等					
運営規定、利用者負担等について丁寧な説明をしているか	70%	30%			
児童発達支援ガイドラインの提供すべき支援のねらいに基づき、個別支援計画書を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ているか	60%	25%	15%		
保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	60%	25%	15%		悩みや不安を気軽に話すことができる機会を今後も設け、それに対し迅速に対応していきます。
父母会の活動の支援を行ったり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	50%		50%	カルチャー教室・参観日・親子レク開催	事業所としての父母会はありませんが、事業所として保護者が集まり交流できる機会を今後も行っていきます。
子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備すると共に、相談や申し入れに対して迅速に対応しているか	60%	15%	25%		相談や申し入れに対し、事業所内もしくは家庭訪問を行い、地域や医療機関とも情報を共有し即対応しています。
定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を発信しているか	85%	15%			利用児様にむけた活動状況報告（通信）と、行事案内や報告をこれからも行っていきます。
個人情報の取り扱いに十分注意しているか	100%				
子どもの意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100%				
事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を行っているか	45%	15%	60%		内覧会、スヌーズレン発表会などを開催。
非常時の対応					
緊急時マニュアル、感染症マニュアル等を策定し、発生を想定した訓練を実施しているか	85%	15%			マニュアルの定期的な確認と見直しを行います。
定期的に避難訓練や救出訓練を行っているか	85%	15%			年に春と秋の2回避難訓練を開催していま

					す。
子どもの体調把握（服薬・予防接種・てんかん発作等）や状況を事前に確認しているか	85%	15%		定期的に医療ケア状況・体調の情報提供	
食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	85%	15%			食物アレルギーへの医師の指示は今のところありませんが、他の点ではアレルギー対応住宅にリフォームし、支援しています。
ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	85%	15%			
虐待を防止するため、適切な対応をしているか	70%	15%	15%		
どのような場合に身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、十分な研修と説明を行った上で、個別支援計画に記載しているか	45%	40%	15%		現在、身体拘束を必要とするお子さまは当施設にはおりませんが、強度行動障害基礎研修を修了した者を配置しています。 改めて検討し、適切に対応してまいります。

この自己評価結果（公表）は、事業所全体で行った自己評価です。